

大分県における稲発酵粗飼料用品種「たちすずか」の栽培法

田中啓二郎¹⁾・菊屋良幸²⁾・○河野礼紀・森山修志・近乗偉夫

(大分農林水産研指水田・¹⁾大分農林水産研指農研・²⁾大分県集落営農 水田対策室)

【目的】

現在、大分県では稲発酵粗飼料用奨励品種として「ニシアオバ」、「ミナミュタカ」、「夢あおば」を採用している。2011～2013年に実施した品種選定試験により、新たに茎葉多収型品種として「たちすずか」が有望と判定された。そこで本研究では「たちすずか」の栽培法について検討したので報告する。

【材料および方法】

試験は2012～2013年に水田農業グループ内圃場(宇佐市、標高8m)にて「たちすずか」を用いて実施した。施肥体系は4区(表1)を設定し、それぞれについて栽植密度を坪当たり40株、50株の2水準との組み合わせにより、1区2反復にて比較検討した。

表1 各区の成分別施肥量(kg/10a)

区名	N			P ₂ O ₅			K ₂ O		
	基肥	分けつ肥	穂肥	基肥	分けつ肥	穂肥	基肥	分けつ肥	穂肥
6-4-0区	6	4	0	12	0	0	9	0	0
4-4-0区	4	4	0	12	0	0	9	0	0
8-0-0区	8	0	0	8	0	0	6	0	0
6-0-4区(慣行)	6	0	4	16	0	0	12	0	0

注1)基肥には高度化成005(N:P:K=10:20:15%)、分けつ肥および穂肥には硫安(N=21%)を使用。

2)移植は6月28日、分けつ肥は移植後27日に、穂肥は幼穂長10mmに達した時点で施用。

【結果および考察】

1) 生育調査結果

黄熟期、成熟期については、施肥法や栽植密度による差はみられなかった。稈長は、栽植密度に

かかわらず、基肥のみ施用した8-0-0区が最も低く、追肥を施用した6-4-0区、4-4-0区、6-0-4区で高くなる傾向がみられた。また、いずれの区でも倒伏はみられなかった。

2) 収量調査結果

黄熟期の全刈り収量(生重)は、いずれの施肥区においても坪50株が坪40株よりも多収となった。また、施肥区別では、栽植密度にかかわらず6-4-0区で多収となった。これは、基肥により分けつ数が確保され、分けつ肥により葉身の生長が旺盛になったことによるものと考えられる。その結果、坪50株、6-4-0区で最も多収となった。

一方、成熟期の精粒重はいずれの栽植密度でも6-0-4区が最も多収となり、特に坪50株で400kg/10a以上となった。

3) 考察

「たちすずか」の茎葉多収栽培における、全刈り収量の向上には栽植密度坪当たり50株、基肥6kg-分けつ肥4kgの体系が有効であった。今回の試験では施肥に全量化成肥料を用いたが、基肥を堆肥などの有機質資材で一部代替することで、より低コストでの栽培も可能であると考えられた。

また、「たちすずか」の採種栽培における、粒収量の向上には栽植密度坪当たり50株、基肥6kg-穂肥4kgの体系が有効であると考えられた。

表2 「たちすずか」の栽植密度と施肥時期別にみた生育および収量

栽植密度	施肥体系	出穂期 月/日	黄熟期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏程度 0-5	黄熟期全刈り収量				精粒重 kg/10a	玄米千粒重 g
									生重		乾物重			
坪40株 (30×28cm)	6-4-0	9/9	10/10	10/20	106	13.4	259	0	3,335	(108)	1,552	(117)	342	23.8
	4-4-0	9/9	10/10	10/20	103	13.4	248	0	3,253	(106)	1,571	(118)	326	23.8
	8-0-0	9/9	10/10	10/20	99	13.8	241	0	2,912	(95)	1,375	(103)	317	24.2
	6-0-4	9/9	10/10	10/20	102	14.6	225	0	3,080	(100)	1,331	(100)	393	24.1
坪50株 (30×22cm)	6-4-0	9/9	10/10	10/20	106	13.8	270	0	3,550	(109)	1,728	(118)	338	23.9
	4-4-0	9/9	10/10	10/20	105	13.8	269	0	3,303	(102)	1,492	(102)	346	23.7
	8-0-0	9/9	10/10	10/20	97	13.7	228	0	2,922	(90)	1,334	(91)	327	24.2
	6-0-4	9/9	10/10	10/20	101	15.2	232	0	3,247	(100)	1,466	(100)	411	24.4

注1)2012～2013年の平均値を表す。

2)施肥体系は基肥-分けつ肥-穂肥の窒素成分量(kg/10a)を表す。

3)倒伏程度は無～基の6段階を0～5の数字で表す。

4)(比)は慣行区を100とした場合の各区の比率を表す。

5)精粒重、玄米千粒重は水分含量14.5%換算した値を表す。